

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岐阜県 瑞穂市

自治体名：岐阜県 瑞穂市

担当課名：生涯学習課

電話番号：058-327-2117

1.自治体の基本情報

基本情報

| | |
|------------------------|-----------------------|
| 面積 | 28.19 km ² |
| 人口 | 56,265 人 |
| 公立中学校数 | 3 校 |
| 公立中学校生徒数 | 1,743 人 |
| 部活動数 | 46 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 策定済 |

令和6年5月1日現在

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

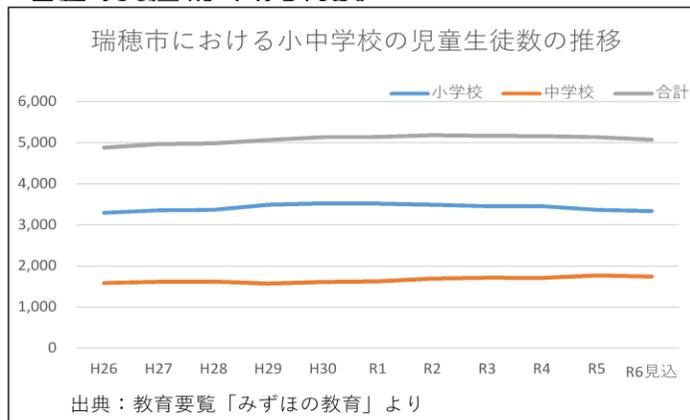
現在、当市の運動部活動は、サッカー部、剣道部（3校）、ダンス部の5つが活動している。

当市は、現在でも人口増加が続いている状況ではあるが、子どもの数は減少傾向である。今後を見据えると少子化に転じた際の対策を今から考えていかなければならない。3つの中学校における各部活動においても、団体競技などでは、まだチームが組める部と数名しか在籍していない部で大きく差ができています。同種目において男子と女子が合同で活動する、他の中学校と合同で活動を行うなど、早期に模索していく必要がある。

また、地域クラブ活動に移行するにあたり、慢性的な課題としては、「地域指導者の確保」と「保護者会の負担」が挙げられる。

「地域子どもたちは、地域で育てる」「子どもに軸足を置いた地域クラブ活動」を目標として掲げ、保護者や指導者の理解と支援を得ながら、同時に教職員の働き方改革の推進も合わせて地域移行を進める。

長年にわたって部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いている。今後、地域移行に当たり部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識することが必要であり、同時に地域移行の推進にあたって学校の教職員以外の地域内の指導者の掘り起こし、確保も同時に進めていかなければならない。



【課題】

瑞穂市の人口は、今後しばらくは増加すると見込まれているが、児童生徒数に関しては横ばい状態が続くと想定される。

2.実証内容と成果

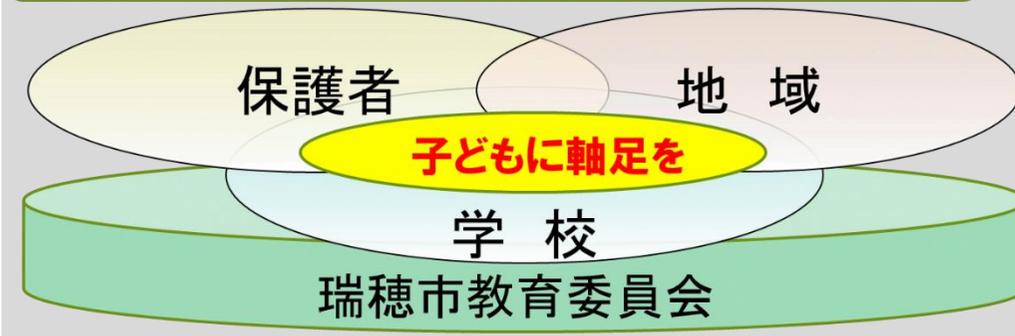
運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）

瑞穂市地域クラブ活動

地域の子どもたちは、地域で育てる

保護者、地域、学校の3者連携協働型



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について
- ・生涯学習課…中学生の地域文化活動の環境整備

◎市長部局

- ・財務情報課…予算措置、ふるさと納税の検討

年間の事業スケジュール

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 令和6年4月 | 地域クラブ活動の実施 |
| 令和6年4月 | 地域指導者委嘱式兼研修会の開催 |
| 令和6年4月～ | 総括コーディネーターによる地域クラブ活動及び学校部活動の視察 |
| 令和6年4月～ | 総括コーディネーターによる地域クラブ活動及び学校部活動関係者との意見交換 |
| 令和6年7月 | 県担当者との勉強会を開催 |
| 令和6年7月 | 第1回保護者説明会の開催 |
| 令和7年1月 | 第1回地域クラブ活動推進委員会の開催 |
| 令和7年2月 | 第2回保護者説明会の開催 |

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

| | | | |
|----------|--|-------------|-----------|
| 中学校数 | 3校 | 実施した地域クラブ総数 | 5クラブ |
| ケース別クラブ数 | A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） | | 5クラブ（5部活） |
| | B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等） | | 0クラブ |
| 全体の指導者数 | 16人 | 全体の運営スタッフ数 | 約20人 |

②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者 (学年別) | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数 (他クラブと兼務) | 会費 | 大会参加方法 |
|--------|--------|-------------------------|-------------|----------------------|-------------------------|-------------|-------------|------|----------------------|-------------------|---------|
| 穂積サッカー | 保護者会 | サッカー | 月4回/ 週1回 | 主に 9:00~ 12:00 | 3年13人 2年6人 1年7人 | 令和6年 4月~ | 穂積中学校グラウンド | 6人 | 3人 | 月会費 500円/ 月 | 中体連：部活動 |
| 穂積剣道 | 保護者会 | 剣道 | 月4回/ 週1回 | 主に 8:00~ 11:00 | 3年5人 2年7人 1年0人 | 令和6年 4月~ | 穂積中学校剣道場 | 2人 | 3人 | 月会費 500円/ 月 | 中体連：部活動 |
| 穂積北剣道 | 保護者会 | 剣道 | 月4回/ 週1回 | 主に 8:00~ 11:00 | 3年5人 2年8人 1年0人 | 令和6年 4月~ | 穂積北中学校剣道場 | 2人 | 3人 | 月会費 500円/ 月 | 中体連：部活動 |
| 巢南剣道 | 保護者会 | 剣道 | 月4回/ 週1回 | 主に 9:00~ 12:00 | 3年0人 2年6人 1年5人 | 令和6年 9月~ | 巢南中学校剣道場 | 3人 | 4人 | 月会費 500円/ 月 | 中体連：部活動 |
| 巢南ダンス | 保護者会 | ダンス | 月2回 | 主に 9:00~ 12:00 | 3年12人 2年11人 1年15人 | 令和6年 4月~ | 瑞穂市教育支援センター | 3人 | 3人 | 月会費 500円/ 月 | 中体連：部活動 |

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 平日に所属している中学校部活動とは異なる地域クラブ活動への参加も奨励。体験も可としている。

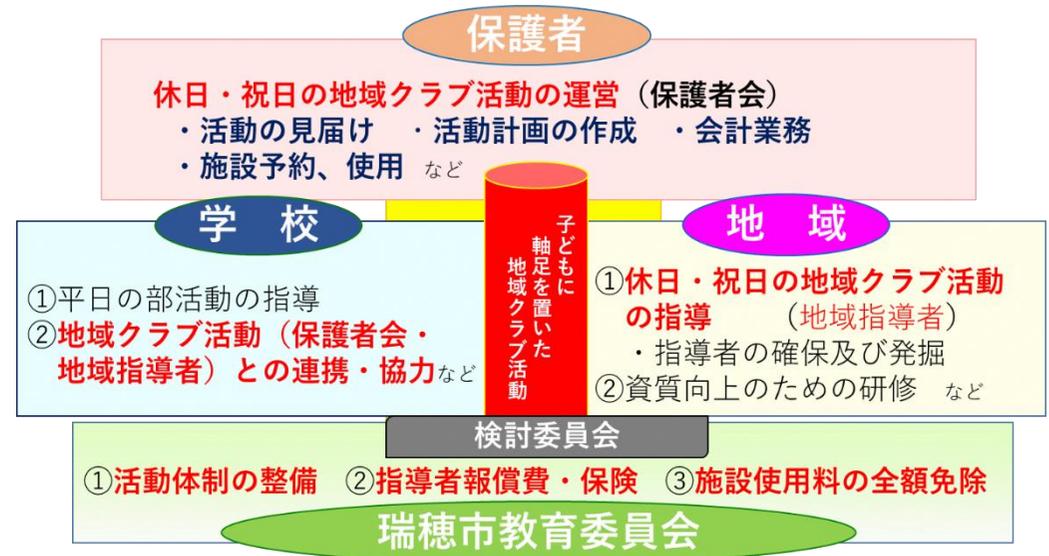
2.実証内容と成果

主な取組例

● 瑞穂市地域クラブ活動 活動概要

| | |
|-----------------|--|
| 地域クラブ活動で実施した種目 | サッカー、剣道、ダンス |
| 運営団体名 | 瑞穂市教育委員会 |
| 期間と日数 | 毎週1回 月4回程度 |
| 指導者の主な属性 | 経験者、小中学校教員 |
| 活動場所 | 穂積中学校等のグラウンド、剣道場、瑞穂市教育支援センター |
| 主な移動手段 | 自転車 |
| 1人あたりの参加会費等(年額) | 月額500円 (年額6,000円) |
| 1人あたりの保険料 | スポーツ安全保険 生徒1人あたり：各保護者会にて加入 指導者1人あたり：1,850円/年 |

● 運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 保護者会長 (統括責任者) 1名
役割：活動における管理者として、指導者、学校との連携を行う
- 地域指導者 (主任指導者) 数名
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域的な活動を行う総括コーディネーターを1名配置し、関係団体、中学校との連絡調整・指導助言等を行う。

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

○参加者管理、会費徴収、参加者・指導者への連絡等をNPO法人に委託。（委託費用：1,925千円）

取組の成果

○総括コーディネーターを運営団体に配置、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことにより、以下のことを効果的、効率的に進めることができた。

- ・地域クラブ活動への移行に向けた各保護者会の困りごとの迅速な把握とそれに対する助言や支援
- ・同競技種目の部活動どうしをつなぐことによる連携・協力体制の構築
- ・各中学校の部活動顧問に対する継続したバックアップ体制と地域移行促進に向けた協力要請
- ・将来を見据えた瑞穂市における目指すべき地域クラブ活動像の周知

○市体育協会、スポーツ少年団との連携により、指導者確保に向けた取り組みを進め、また、中学校長やPTA等との連携により、早期の地域クラブ活動への移行への理解と協力を呼び掛けた。運営団体・実施主体としては、保護者会が毎回行わなければならない事務手続きなどをできる限り簡素化することで、保護者会の事務負担を減らすことができた。

○委託先であるNPO法人との連携により業務負担の軽減、コストの削減ができ、持続可能な地域クラブ活動の運営体制に向けて進めることができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・1か月ごとに各クラブを巡回し、課題等のヒアリング・助言等を実施した。
- ・推進委員会の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた。
- ・学校、参加者、指導者、保護者への連絡調整を実施した。

今後の課題と対応方針

- 今後、都道府県が示した地域スポーツクラブ活動の要件等を踏まえ、要件や基準等を調整して設定し、登録・指定等を実施する必要があると考える。
- コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・令和6年4月に人材バンクを設置し、指導者の確保に努める。
- ・指導者に対して、資質向上のための研修を年1回以上開催する。
(内容は、主に行き過ぎた指導や危機管理に関することなど)
- ・参加生徒の安全・健康管理に努める。

人材バンクの人数

21名

人材バンクの年齢構成

| | |
|-------|----|
| 10代 | 0名 |
| 20代 | 3名 |
| 30代 | 1名 |
| 40代 | 3名 |
| 50代 | 9名 |
| 60代以上 | 5名 |

登録者属性

職業

| | |
|------|-----|
| ・会社員 | 12名 |
| ・教員 | 3名 |
| ・公務員 | 3名 |
| ・自営業 | 2名 |
| ・無職 | 1名 |

※市広報紙、市公式ホームページなどで登録を呼びかけた

種目

- ・野球
- ・サッカー
- ・バレーボール
- ・バスケットボール
- ・ソフトテニス
- ・バドミントン
- ・陸上競技
- ・空手道

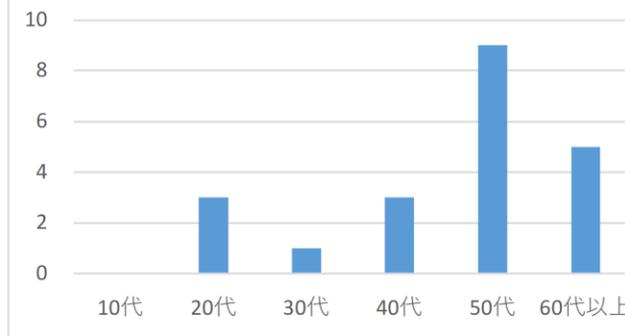
資格有無

- ・日本スポーツ協会コーチングアシスタント
- ・JSPO公認スポーツ指導者
- ・スポーツ少年団認定員
- ・地域クラブ指導者育成研修会認定証
- …など

取組の成果

- ・指導者21名を確保した。
- ・年度当初に指導者研修会を実施し、約50人の参加があった。
- ・地域クラブ活動説明会では、同競技種目による指導者どうしの情報共有・意見交換を行った。
⇒今後の大会参加における事務手続きなどが話題となった。
- ・市体育協会、スポーツ少年団に働きかけ、地域指導者の確保に努めた。
⇒市の人材バンクとしてとりまとめた。
- ・県の人材バンクも利用しながら、登録のない団体種目の指導者確保に努めた。
- ・各部において、なるべく複数人が指導に当たることができる体制づくりを重点的に取り組んだ。

瑞穂市の人材バンク登録者数
(令和7年1月31日現在)



出典：瑞穂市教育委員会

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【地域指導者委嘱式兼研修会】

- ・対象：地域クラブ活動の指導者である「地域指導者」と学校部活動の指導者である「社会人指導者」
- ・目的：各指導者としての委嘱指導者に求められる指導の在り方など
- ・工夫した点：地域指導者、社会人指導者を合同で委嘱するとともに研修会では行き過ぎた指導やハラスメント対策などについて、市としての統一的な見解を示した。

※研修会は、市職員が配布資料に沿って説明し、研修用のビデオ映像を視聴しながら行った

指導者研修の参加実績

- ・開催日：令和6年4月19日
 - ・開催回数：1回
 - ・参加人数：約50人
- 開催時間は18:30～19:30で行い、お勤めの方でも参加しやすい時間帯で設定した。

受講者の声

参加した地域クラブ指導者の声

「指導する際にどのようなことに注意を払わなければならないかが改めて、よくわかった。」

「勝敗にこだわり過ぎないこと、競技性に走り過ぎないことの加減が正直難しい。」

「指導している子によって、とらえ方はさまざまなので、本人の個性を生かしながら指導をしたい。」

「子どもたちの様子をしっかりと見ながら、健康面、安全面の配慮を行っていきたい。」

「昔は当たり前だった指導も、今では受け入れられないこともある。常にアンテナを張って有効な指導方法を追求していきたい。」

今後の課題と対応方針

- 地域クラブで指導する者は、本研修を必須とし、今後は何の水準まで質を求めるかについての検討を進める必要がある。
- 平日と休日の指導者間の効率的・効果的な連携方策について検討する必要がある。
- 中学校との連絡調整について、具体的に誰とどのように行っていくか。検討しなければならない。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 学校と連携して進めていくため、中学校長やPTA等において、本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。
- 指導者の派遣、施設の利用、研修教材の提供・講師派遣などについて朝日大学との連携を模索。
- 市内循環バスを活用してもらい、生徒が活動場所までの移動手段として確保している。

取組の成果

- 中学校長やPTA等を訪問し、中学校としても地域クラブ活動への移行にさまざまなかたちで協力を求めることとし、3つの中学校全ての生徒に事前周知のチラシの配布を行った。
- 各運営主体が活動するときは、**指導者が競技種目の指導に集中できるよう、会場の施錠、開場や参加者の出欠確認などを行う保護者会役員の配置を呼びかけた。**
- 各種団体の代表者で構成している推進委員会のメンバーには、部活動の保護者会が地域移行を困難としているさまざまな課題に対して相談窓口を設けるなど、それぞれの立場で助言や支援をしてもらえるよう協力要請を行っており、地域一体となってスポーツ部活動の地域移行に向けた環境づくりを進めた。

【令和6年度 瑞穂市地域クラブ活動推進委員会委員名簿】

| 該当選任基準 | 備考 |
|-------------------|---------------------------|
| 1 朝日大学教授 | ・保健医療学部 健康スポーツ科学科 スポーツ教育学 |
| 2 瑞穂市文化協会 | ・瑞穂市文化協会副会長 |
| 3 瑞穂市体育協会 | ・瑞穂市体育協会副会長 ※朝日大学 |
| 4 瑞穂市スポーツ少年団 | ・瑞穂市スポーツ少年団副本部長 |
| 5 NPO法人Link-upみずほ | ・NPO法人Link-upみずほ 事務局長 |
| 6 保護者の代表者 | ・穂積中学校 PTA会長（市PTA連合会副会長） |
| 7 保護者の代表者 | ・穂積北中学校 PTA会長 |
| 8 指導者の代表者 | ・兼南中学校 ソフトテニス部社会人指導者 |
| 9 中学校の代表者 | ・兼南中学校 校長 |
| 10 中学校の代表者 | ・穂積中学校部活動主任 |
| 11 中学校の代表者 | ・穂積北中学校部活動主任 |
| 12 中学校の代表者 | ・兼南中学校部活動主任 |

バス等の運行実績

【みずほバス】

- ・日数 360日
- ・利用者数 年間約12万人
- ・運行経路 市内全域

バス等の運航経費・収入

- ・運航費など (株)岐阜バスへ運航を委託
- ・利用料 大人 100円
 小人・幼児 50円
 乳児 無料

今後の課題と対応方針

- 競技団体、総合型地域スポーツクラブ、民間事業者、学校等の多様な団体に参画してもらう必要があるため、更なる連携強化を図る。
- 運営の効率化を図るため、アプリの活用を検討し、効率化を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 現在は、瑞穂市内の中学校部活動から地域クラブ活動への移行を推進しており、エリアとしての取組は設定していないが、今後は検討が必要となる。
- エリアについては、目安であり、エリア外の生徒も参加することができるように実施する。
- 活動場所や指導者確保の面から、同競技種目ごとに連携して活動することも視野に入れていく。

各自治体の役割

- 瑞穂市教育委員会
 - ・地域クラブ運営、予算管理
 - ・関係機関との連絡、調整
 - ・理解促進に向けての広報
 - ・諸謝金等の事務処理
- 他市教育委員会
 - ・今のところ連携の実績はない。しかしながら、児童生徒数の減少に備え、近接市町との相互協力できる体制づくりが必要となる。

移動手段

- 市内循環バスを活用し、生徒の活動場所までの移動手段を確保していく。
- 今後、各中学校でチームが組めない競技などが出てきた場合、市として一つのチームを組み、活動することが想定される。その場合、活動場所までの移動は、市内循環バスを利用することとなるため、地域クラブ活動として利用する場合の料金設定等、検討が必要となってくる。

事務局運営の方法

- 瑞穂市教育委員会生涯学習課に地域クラブ事務局を設置。学校教育課は中学校及び部活動指導者との連絡調整の役割を担う。
- 総括コーディネーターが関係団体等との連絡調整を実施。
- 委託先であるNPO法人が、各地域クラブ活動のとりまとめを行う。各地域クラブ活動の管理、活動場所の確保、活動費の請求などの事務手続きを行う。

取組の成果

- 地域クラブ活動に参加を希望する生徒が、活動エリア外からの参加であっても、受け入れられる体制づくりを行う。
- 今後は他市町で連携して取り組むことで、多くの種目の地域クラブ活動を実施することができるよう検討する。



今後の課題と対応方針

- 地域クラブ活動への移行に取り組む中学校部活動を増やしていき、令和7年度末までに域内の全ての運動部活動を地域クラブ活動へ移行する。
- 平日の部活動との連携が課題。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○第1回、第2回の地域クラブ活動への移行に向けての説明会では、実際に移行した保護者の意見を紹介しながら、内容や工夫した点を発表した。

○学年が変わることで参加する保護者の代表も変わることがあり、初めて地域クラブ活動へ携わる人がほとんどとなる。以前にも同じ説明をしているところであるが、運営団体側としては丁寧に内容を伝えるとともに質問・相談等の時間を長く設けた。

○受付にて、各部活動保護者代表の出欠席を確認しており、欠席された部活動の保護者代表には総括コーディネーターから電話をし、改めて説明する時間を設けた。

| 活動の詳細 | | | |
|--------|--|------|------|
| 参加人数 | 第1回 200人 第2回 200人 | 指導者数 | 20人 |
| 属性 | 第1回、第2回 地域クラブ活動移行に関する説明会 | | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・瑞穂市における地域移行の在り方 ・地域移行をしている団体の保護者の方々の声 ・手続きについて（web登録） ・今後の方向性 | | |
| 保護者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ● 保護者同士の輪が大切である ● 中学校顧問の先生との連携は不可欠 ● わが子がかんばっている姿を当番として間近で見届けができる ● 当番をすることで、子どもたちのかかわりが増える | | |
| 関係者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ● 中学校顧問の先生とは、予定を立てるときに多くの相談が必要となるので関係づくりをしておくことが必要である ● 今まで以上に地域指導者との連絡を密にして取り組むことがカギとなる ● 保護者会では、事前の共通理解をし、協力体制を築くことが必要 | | |
| 運営経費 | <ul style="list-style-type: none"> ・紙購入代 ・資料印刷代 ・CD-ROM（事務書式データ） など | 合計 | 約5万円 |

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

市教育委員会では、「中学校選手派遣補助」を設けており、地域クラブ活動においても、生徒が中学校体育連盟主催等の大会、各種大会等への参加に要する経費を補助する。令和6年度は2クラブが活用した。

《対象範囲》

- ①岐阜県教育委員会又は中学校体育連盟が主催もしくは後援する大会等であり、地区大会以上の参加であること
 - ②瑞穂市教育委員会が主催もしくは後援する大会等であること
- ※交通費・宿泊費は、出場選手及び地域指導者への補助とする。

地区大会以上であればバスの借り上げについても、おおむね半額を目安として補助する。実績はまだない。

《対象範囲》

- ①中学校体育連盟の夏季大会において地区大会以上
- ②教育長が必要と認めるもの。

今後の課題と対応方針

- ・多くの地域クラブ活動が、大会へ参加する場合、多額の大会参加費の補助、バス借り上げ補助が必要になる。持続可能な財源の確保が必要である。
- ・中体連による大会、またはその他、地域クラブとして参加する大会など、補助すべき対象となる大会なのか選別をしなければならない。
- ・選手、保護者、指導者、個人競技、団体競技により補助の仕方を変えるなど、さらに詳細な取り決めを早期に定めておく必要がある。
- ・現在は、一つの地域クラブ活動において年度内に補助が受けられる回数などを特段定めていないが、数年の実績を蓄積し、分析したうえで回数等にも上限を設けるなどの処置を考慮する。

⑤大会について(運動系)

中体連

役員 顧問

※中体連より派遣依頼

監督 顧問または地域指導者

コーチ 顧問または地域指導者

審判 連盟・協会の方 顧問

※地域指導者に依頼もあり

保護者 応援・送迎



種目によって異なる

連盟・協会主催大会

役員 地域指導者

※現在は多くの顧問が尽力している

監督 地域指導者

コーチ 地域指導者

審判 連盟・協会の方 指導者

保護者 応援・送迎
地域指導者への協力

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行っていく必要がある。

実証事業における収支構造の可視化を行い、今後の適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行った。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

システム整備、庶務に係る費用（1,925千円）

■ランニングコストの分析

指導者謝金（8,065千円）

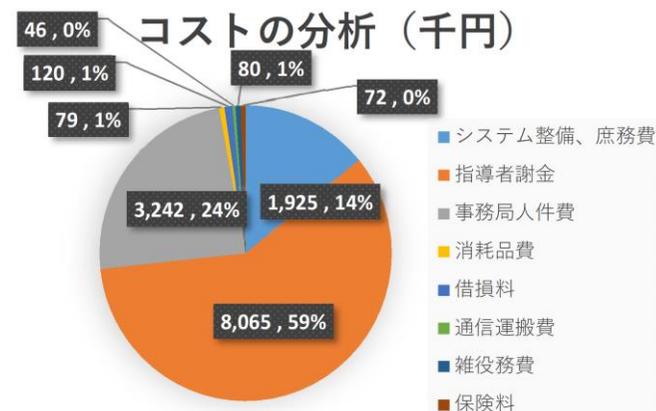
事務局人件費（3,242千円）

消耗品費（79千円） 借損料（120千円）

通信運搬費（46千円） 雑役務費（80千円）

保険料（72千円）

コストの分析（千円）



持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った。その結果、生徒一人につき月500円を収集することとした。

【試算】

(収入) 3つの中学校のスポーツ39部活動728名が所属とした場合

$$728名 \times 500円 \times 12か月 \times 75\% = 3,276,000円$$

※1年生と3年生は月数が減することを加味し一律75%とする。

(支出) 39部活動に地域指導者2名とした場合

$$39部 \times 4名 \times 週4回 \times 1,500円 \times 3時間 = 2,808,000円$$

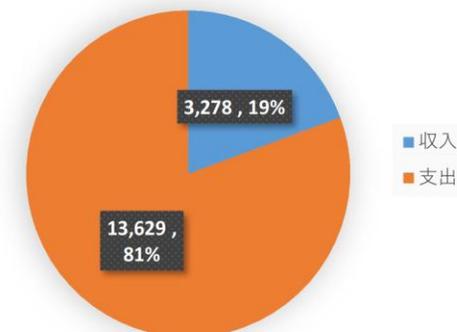
$$39部 \times 4名 \times 保険代1,900円 = 296,400円$$

収支バランス

今後、実証事業による収入がなくなった場合には、市の一般財源から支出することとなる。

受益者負担の観点からも、どのように地域クラブ活動を運営していくかが課題となる。

収支バランス（千円）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

○運営主体の収支構造において、「活動費」については、生徒の保護者等や指導者自らが負担するべきものとする。また、「事務局運営費」については、生徒へ直接的に支援している経費ではないので、国費や市の自主財源等を活用する。よって、「活動費」を受益者負担の対象に検証を行う。

○受益者負担額の設定においては、「1ヶ月単位」で活動の参加有無に関わらず申込者全員で負担する方法であるが、受益者負担の額が非常に大きくなるとともに、収益の見込みがつかないことから、運営主体において、持続可能な運営は困難になると思われる。

○この収支状況は、今後も大きく変化することはないため、今後は地元企業の協賛等、新たな収入源の確保も視野に入れながら、安定した財政基盤を構築していくことが重要である。

■収入

| 項目 | 費用（千円） |
|-----|--------|
| 活動費 | 3,278 |
| 合計 | 3,278 |

■支出

| 項目 | 費用（千円） |
|------------|--------|
| システム整備、庶務費 | 1,925 |
| 指導者謝金 | 8,065 |
| 事務局人件費 | 3,242 |
| 消耗品費 | 79 |
| 借損料 | 120 |
| 通信運搬費 | 46 |
| 雑役務費 | 80 |
| 保険料 | 72 |
| 合計 | 13,629 |

今後の課題と対応方針

○「活動費」に絞って、参加者に負担を求める場合であっても、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた時に運営が難しい状況が想定される。低廉な受益者負担を求めたうえで、少なからず企業の協賛や行政の支援が必要であるため、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築しなければならない。

○将来に向けて、瑞穂市の地域クラブ活動の推進事業の内容を地域の皆様や地元企業などにも広くPRしていくことで理解を得ながら、できる限りの支援・協力を受けられるような体制づくりを行っていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行った。

取組の成果

○全ての地域クラブ活動において、中学校の体育施設、社会体育施設及び市の教育施設を利用しての活動となった。



【穂積中学校グラウンド】



【瑞穂市教育支援センター】

今後の課題と対応方針

○活動日にスポーツ少年団など他団体が活動している施設も見られることから、引き続き、調整しながらバランスの取れた活動場所の配分を進める。

○今後、部活動の地域移行に伴い、地域クラブ活動の拠点となる学校体育施設の利用しやすい環境を整えるため、学校体育施設の利用調整をバランスよく行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

○拠点校方式・合同クラブチームを見据えた取組を推進する観点から、今後どのような課題をクリアしていかなければならないか、課題の抽出や問題解決策の検討等を行った。

取組の成果

【拠点校方式(瑞穂クラブ)】

【瑞穂市合同クラブチーム】

中学校の施設あるいは市の施設に拠点を置き、利便性などを総合的に考慮し決定する。

(理由)

少子化による生徒数の減少傾向、持続可能な組織の運営、指導体制の維持、練習環境の保持など。

(形態)

地域クラブ活動として、休日の昼間に3校の生徒が集まり、複数の指導者の下で多くの集団が練習する。

(効果)

多人数で活動できることにより、試合形式、実戦形式での練習を多く体験できるようになり、競技の楽しさをより実感できる環境となる。

指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性

拠点校方式・合同クラブチームとなることにより単独では指導者の確保が困難であった地域クラブ活動も活動ができるようになる。

・配置の工夫

市内循環バスを利用するなど生徒の移動手段を確保する。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

○学校で使用している連絡用アプリを活用することで、平日の中学校部活動の活動場所と休日の地域クラブ活動の活動場所の使用許可の結果が送信されることから、中学校においても保護者会においても、双方が活動場所の状況が確認できるようになっている。

○また、活動における全体への注意喚起や連絡事項がこのアプリにより瞬時に送信が可能となっている。

今後の課題と対応方針

人数の少ない地域クラブ活動から段階的に拠点校方式・合同クラブチーム化を採用していくことで課題やノウハウを蓄積していき、将来的な市全体での取り組みに備える。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

瑞穂市における休日部活動の地域移行を生徒にとって望ましいかたちで実現するため、市における様々な状況を踏まえながら、「子どもたちに軸足を置いた地域クラブ活動」の実現に向け取り組んできた。

瑞穂市としては、下記に重点を置いて進めてきた。

1点目は、令和7年度末までを目途に、学校部活動の教育的意義や役割を継承・発展させながら、地域クラブ活動への移行を目指すこと。

2点目は、持続可能な運営体制の実現を目指し、瑞穂市教育委員会を中心に関係団体が連携して検討、運営を行うこと。

3点目は、活動の運営は「保護者会」、指導者の登録・連携等は「総合型地域スポーツクラブ（Link-upみずほ）」、事務局は「教育委員会（生涯学習課、学校教育課）」がそれぞれ担当すること。

また、取組の内容としては、下記のとおりとした。

- ・地域指導者や保護者会との情報共有、連携を行う。（学校、保護者会、地域指導者など）
- ・地域クラブ活動中に問題が発生した時には連携・協力して対応に当たる。
- ・中学校の顧問も積極的に地域指導者に登録してもらう。
- ・生徒に肉体的・精神的な負担がかかりすぎないように十分配慮するよう注意喚起を図る。

今後も以上のことを大事にしながら、早期の学校部活動から地域クラブ活動への移行を図っていく。

●成果の評価

瑞穂市内の3つの中学校において39種目の部活動（スポーツ部）が活動しているが、令和6年度に地域移行したのは5つの地域クラブ活動となった。

今年度に地域クラブ活動への移行を予定していた部活動の多くが見合わせる事となり、その理由として、保護者(会)の負担が大きい、地域指導者の確保ができないとする2つが挙げられた。そのため、状況が整ったところから地域移行することとなった。

重点の1点目の成果として、説明会等での周知により、保護者(会)の地域クラブ活動への移行は必ず行わなければならないことであるとの認識が以前に比べかなり高まってきた。重点の2点目の成果として、持続可能な運営体制の実現に向け、地域クラブ活動に関する事業は、慣れない中での業務の遂行となったが、様々な課題をクリアしながら安定的な運営体制を確立した。重点の3点目の成果としては、各組織団体がそれぞれの役割や担当業務を着実に行うことで、大きな事件やトラブルの発生もなく、安全で安心な地域クラブ活動を実践し、展開していくことができた。

●今後に向けて

令和7年度末までに39の部活動（スポーツ部）が、学校部活動の教育的意義や役割を継承・発展させながら、地域クラブ活動へ全て移行すること（令和8年3月末時点で移行率100%）を目標とする。

また、今後も活動の運営は「保護者会」、指導者の登録・連携等は「総合型地域スポーツクラブ（Link-upみずほ）」、事務局は「教育委員会（生涯学習課、学校教育課）」がそれぞれ担当することとし、瑞穂市教育委員会を中心に関係団体が連携して検討、運営を行うことで、持続可能な運営体制の実現を目指していく。

研修会・説明会への参加者の声

2024_07_説明会資料

瑞穂市地域クラブ活動 移行に関する説明会

瑞穂市教育委員会

日時 令和6年7月30日(火) 19:00より
会場 黒南公民館 多目的ホール

内容

- 瑞穂市における地域移行の在り方
- 地域移行をしている団体の保護者の方々の声
- お問い合わせが多く寄せられている内容についての説明
- 手続きについて
- ご指導・ご助言

岐阜県教育委員会 体育健康課
教育主管 古田 浩章 様

(6) 質疑応答

2025_02_説明会資料

瑞穂市地域クラブ活動 移行に関する説明会

瑞穂市教育委員会

日時 令和7年2月10日(月) 18:30より
会場 黒南公民館 多目的ホール

内容

- 瑞穂市における地域移行の在り方
- 地域移行をしている団体の保護者の方々の声
- 手続きについて (WEB登録)
- 今後の方向性
 - 瑞穂市チームの活動
- 質疑応答

-1-

瑞穂市地域クラブ活動

事務の手引き

瑞穂市地域クラブ活動 事務手続用
(令和6年7月30日 Ver.1.1)

| | | |
|-------|--------|---------------------------|
| 生涯学習課 | TEL | 058-327-2117 |
| | E-mail | svougai@city.mizuho.lg.jp |
| 学校教育課 | TEL | 058-327-2116 |
| | E-mail | gatukou@city.mizuho.lg.jp |
| | FAX | 058-327-2105 |
| 共通 | 住所 | 〒501-0392 瑞穂市富田300-2 |

●参加者の声

保護者

- ・保護者会の負担が大きかったが、市のサポートもあり、スムーズに地域移行できた。
- ・地域指導者の確保に人材バンクを利用できることが分かった。

保護者

- ・保護者会の役員についてしっかりと共通理解を図っていきたい。
- ・活動費がどう使われているのか教えてほしい。

地域指導者

- ・子どもたちの負担にならないように練習時間を考えたい。
- ・適切な報酬額の設定をしてもらえるとありがたい。

地域指導者

- ・ケガなどの時の緊急連絡先が明確になり安心できる。
- ・急用で指導ができない場合の代替手段の確保が難しい。

広報資料

市教育委員会に所属する総括コーディネーターが「地域クラブ活動だより」を定期的に発行している。現在まででNo.1～8を発行済み。

地域クラブ活動だより

令和6年6月20日

～休日の学校部活動から地域クラブ活動へ！令和8年3月31日までに～ No.3

紫陽花が美しい季節となりました。皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。いよいよ中体連大会や発表会などが本格的に始まっていきます。今まで積み上げてきたものを発表する場です。結果も大事ですが、自覚姿勢や前向きな気持ちを大事にしてやりたいものです。健康・安全に十分気を付けて、これまでの成果が発揮されることを願っております。

～地域移行をしたクラブの紹介・・・剣道（穂積北中）～

□保護者会長（高井百代さん）より

*移行して2ヶ月が経ちました。なかなか大変ですが、子どもたちの練習を間近で見ることができたりと、指導者、顧問の先生が協力的であることや保護者の方々がまとまっていたから移行できたと思います。予定を2ヶ月前に立てなければならなかったのが大変です。また、学校の先生たちが地域移行全般をあまりご存じではなかったのでよく説明をしておいてほしいと思いました。この地域クラブ活動が次の世代の子どもたちにつながっていくといいと思います。



集中して取り組む生徒たち

□伝えたいこと

*保護者同士の輪が大切になってきます。みなさんの意見を聞きながら、協力的な雰囲気を作っていくことが大切だと思います。
*地域移行を進めるにあたり、顧問の先生との連携は不可欠です。特に予定を立てるときに相談が多くなります。関係づくりをしておくといいと思います。



活動を見守る保護者の方々の様子

～地域クラブ活動移行にあたり、保護者会でやっていただくこと、またその手順～

□保護者会でやっていただくこと

- *地域クラブ活動の環境づくり（指導者確保等）
- *地域クラブ活動の見届け（休日）
- *地域クラブ活動の計画づくり、施設予約等
- *会計業務
- *生徒のスポーツ安全保険への加入

☆地域クラブ活動保護者説明会
令和6年7月30日（火）19時～
奥南公民館 多目的ホール
対象者：各部の保護者代表（1～2名）、学校関係者
内容：移行にともなう内容、手順など

□手順

- *指導者の確保（持続可能なものにするために複数人が望ましい）→市教委とも連携して！
- *登録書類（①クラブ登録申請書②保護者会・指導者登録書③生徒登録書）を市に提出
- *スポーツ安全保険に加入（指導者の分は市で加入。手続き～支払いまで）
- *活動にあたり毎月作成し市に提出（①活動計画兼予約申請書②指導者実績報告書③指導者報酬費請求書）
- *地域クラブ活動の見届け

生涯学習課 TEL 058-327-2117 携帯 090-7674-5632 平日9:00-17:00
どうぞお気軽にご相談ください。 担当：廣瀬、古川



令和6年6月号 No.3

地域クラブ活動だより

令和6年7月8日

～休日の学校部活動から地域クラブ活動へ！令和8年3月31日までに～ No.4

▶地域移行をしたクラブの紹介・・・サッカー（穂積中）

□保護者会長（堀江 亜典さん）より

*私たちのクラブは指導者もタイミング的にいい時期だと思いい地域移行しました。はじめは何をしていいのかわからず大変苦労しました。子どもたちとの関わりが増えたことがよかったです。ただ、サッカーは練習試合や審判依頼など大変なことが多く、学校の先生と連絡を密に取らないと回っていかないので現状です。現在、先生に地域クラブ活動の地域指導者になっていただき支援をいただいています。



早朝から頑張って取り組む生徒たち

□伝えたいこと

*きちんと学校や指導者と話し合いをして、見通しをもってやるのが大切だと思います。2ヶ月先の練習計画を立てようと思うと保護者だけでは難しいです。
*年間のクラブ活動費のことや当番のことなどを保護者会で事前に共有理解をし、協力体制を築いていくことが必要だと思います。

▶地域クラブ活動保護者説明会 日時：令和6年7月30日（火）19時～ 場所：奥南公民館 多目的ホール 対象者：各部の保護者代表（複数名）、学校関係者等 申し込み：参加される方が個人で二次元コードを読み取って申し込み手続きを行ってください。7/24までに



二次元コード

▶保護者の方から次の様な質問が生徒学習課にありました。（怪我に関すること）

- Q1 活動中に子どもが怪我をした場合は、地域移行前でも生徒学習課に連絡をするのですか？
A1 地域移行前は、学校へ連絡いただければ結構です。
Q2 地域移行後は地域クラブ活動だりに記載の電話番号でよいのでしょうか？
A2 地域移行後は、平日9時00分～18時00分であれば、たりに記載の電話番号にご連絡ください。メール（syoga@city.mizuhou.lg.jp）でも結構です。休日については緊急対応が必要な場合は、必要処置を行っていただくともに、市役所（058-327-4111）の日直へご連絡いただければ、担当に話が変わるようになっております。
Q3 地域移行後ですと、怪我をした際に保護者は連絡以外にどこまで対応するのでしょうか？また、どの程度から連絡をするのでしょうか？
A3 救急車等の緊急要請が必要な場合は、現場にいる皆さんで要請してください。また、その後、市役所日直へ一報をお願いします。いじめ、怪我等の重大事案に関しては、その場で解決していただいても必ずご連絡ください。
Q4 連絡してどのように対応していただけるのでしょうか？練習場所まで来ていただけるのでしょうか？
A4 一報をいただいた後、担当者や協議します。早急な対応が求められる場合、必要に応じて担当者が現場に向かい、対応させていただきます。詳細確認等で担当者からご連絡させていただく場合もありますので、ご連絡くださった際に、氏名連絡先をお伝えください。基本的には、現場でご対応をお願いしておりますが、対応が難しい場合や不安が残る場合はご相談ください。 以上が質問と回答です。

生涯学習課 TEL 058-327-2117 携帯 090-7674-5632 平日9:00-18:00 廣瀬、古川

令和6年7月号 No.4

地域クラブ活動だより

令和6年11月20日

～休日の学校部活動から地域クラブ活動へ！令和8年3月31日までに～ No.8

立冬とは言い、今年は暖かい晩秋が続いています。保護者の皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。新チームが発足して、はや2か月以上が経とうとしています。お子さんも、新人戦など、新しい挑戦が続いているかと思えます。体調に充分留意して頑張ってください。

～地域移行したクラブの紹介：剣道クラブ（奥南中）～

□保護者会長（松井 繁さん）の語

*現在、地域クラブ指導者3名で教えていただけているので、大変助かっています。
*保護者のみなさんは協力的で、今までやってきたこと（当番など）の継続だったので特に大変さは感じなかったです。
※訪問時5、6人の保護者の方が見守ってくれました。



真剣に学ぼうとする姿



積極的に教え合う姿



切込練習する生徒たち

※先日、奥南中の部活動保護者会長に参加させていただきました。校長先生やPTA会長さん、指導者の方ともお話ししました。まだまだ課題はありますが、みなさんの熱意を感じました。

理想的な地域指導者の人数は何人くらいでしょうか？

地域指導者の報酬費はどれくらいでしょうか？

市内にある各部活動の社会人指導者や地域指導者の人数をみると、1～4名（残念ながら0名で顧問の先生が指導してみえるところも一部あります。）の幅があります。理想的な人数を考えてみると、2～3名程度の指導者ではないでしょうか。部員数の差はあるにせよ、何十人もの子どもたちを複数人で指導していくことは、安全面、一人一人の子どもたちの成長を考えると大変だと思います。また、片方の指導者が急な事情でお休みになっても複数体制なら安心です。

報酬費についても以下のように、毎週の土日のどちらかを2人で指導した場合は1時間1,500円を支払うことができます。3名以上で指導する場合は活動時間（土日4回の月は2.4時間分、5回の月は3.0時間分）の合計を超えないように調整が必要になってきます。一度、保護者会などで話し合ってみてください。

<地域指導者1名の場合>

- 【1時間】 1,500円
- 【月…上限】
- 1回…1,500円×3時間=4,500円
- 1月…月に土日4回の場合…4,500円×4回=18,000円
- 月に土日5回の場合…4,500円×5回=22,500円

生涯学習課 TEL 058-327-2117 携帯 090-7674-5632 平日9:00-18:00
どうぞお気軽にご相談ください。 担当：廣瀬、古川



令和6年11月号 No.8

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【サッカー（穂積中学校グラウンドにて）】



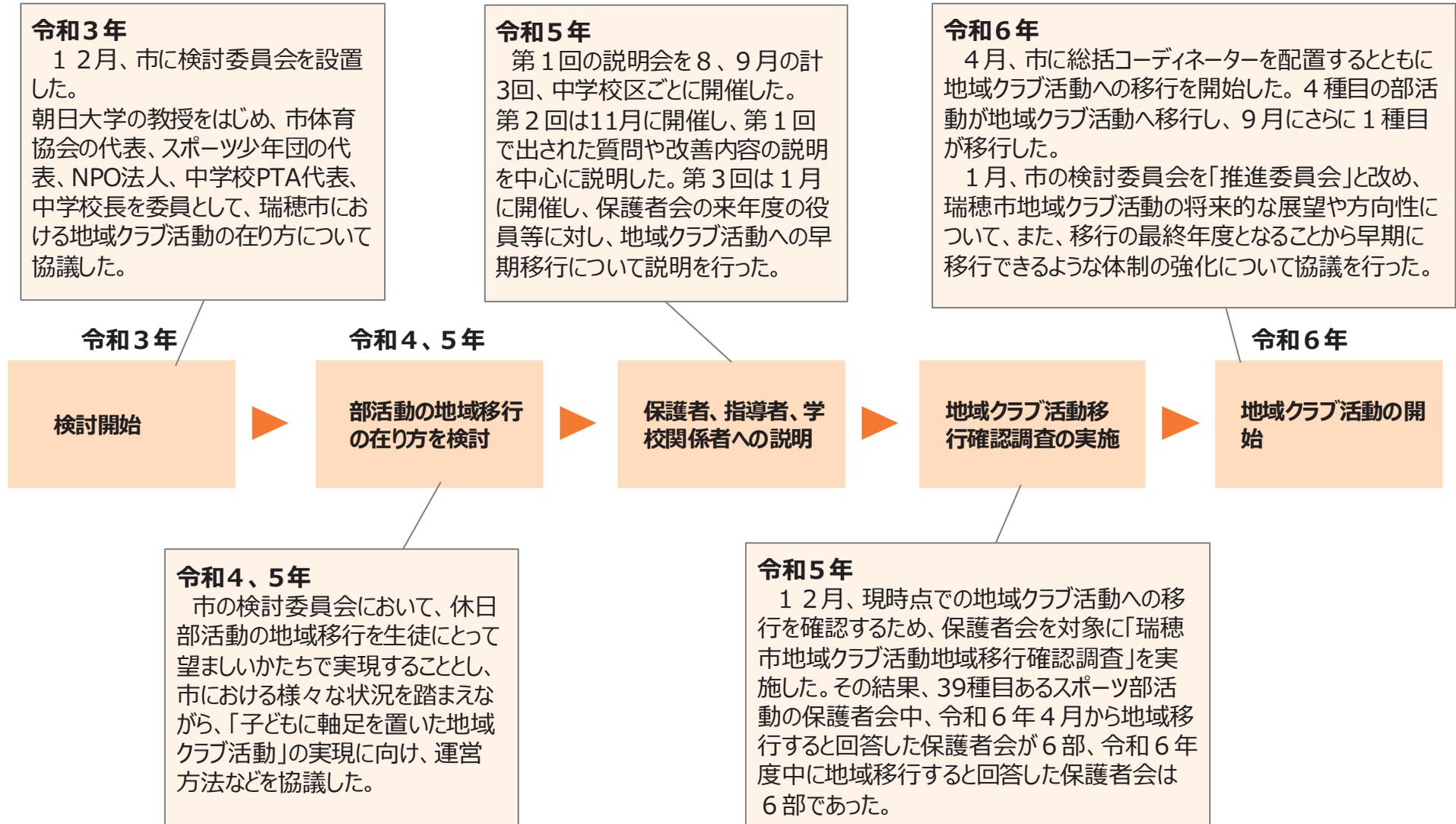
【剣道（穂積中学校剣道場にて）】



【ダンス（瑞穂市教育支援センターにて）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

| 関係機関 | 令和6年度 (2024年度) | 令和7年度 (2025年度) | 令和8年度 (2026年度) |
|---|--------------------------------------|--------------------------------------|----------------|
| 保護者会 (中学校部活動) | 地域移行スタート ※指導者が確保できた団体から 順次移行する | 移行完了(休日) ※令和7年度末を目途に 全ての移行を目指す | |
| 瑞穂市 教育委員会 (総括コーディネーター) | 地域移行の促進 | 地域クラブ活動のサポート | |
| 中学校関係者 | | 持続可能な体制の整備 | 持続可能な体制の強化 |
| | 関係団体との連携・協力体制の充実と拡大 | | |

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岐阜県 飛騨市

自治体名：岐阜県飛騨市

担当課名：教育委員会学校教育課 地域クラブ活動推進室

電話番号：0577-73-7494

1.自治体の基本情報

基本情報

| | |
|------------------------|---------------------|
| 面積 | 793 km ² |
| 人口 | 21,677 人 |
| 公立中学校数 | 3 校 |
| 公立中学校生徒数 | 509 人 |
| 部活動数 | 25 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 策定済 |

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

全国的に少子化が進む中、本市においても、市内の部活動では部員数が減少し、学校によっては単独校で大会等に出場できない、部活動の存続自体が難しいといった状況にあり、今後さらに少子化が進展し、これまでどおりの活動が困難になることが予想される。

こうした状況を踏まえ、本市では教育委員会事務局内に地域クラブ活動推進室を設置し、令和6年度には地域クラブ実証団体として11団体（うち、スポーツクラブは10団体）を市で認定した。実証団体は、部活動の受け皿として先行的に活動する中で、ヒト（参加者や指導者等）、モノ（活動場所や移動手段等）、カネ（補助金等）など多面的に検証を行ってきた。

- ・実証期間を経て、次の課題が明らかになった。
- ・地域クラブへの移行に対し、児童生徒ともに肯定的な意見が多かった一方で、指導者に対する不安感もみられた。
- ・中山間地域において、「活動場所への移動手段の確保」は最も大きな課題の1つであり、保護者の半数以上が送迎に負担感がある。
- ・地域全体で子どものスポーツ・文化活動を支えるため、生徒・保護者等の関係者への周知を積極的に行う必要がある。

今後、地域移行を円滑に進めるにあたっては、運営団体・実施主体の体制整備を行うとともに、これらの環境を整備・維持するための財源確保と継続的な資金循環が必要である。

新たな社会教育環境をつくる

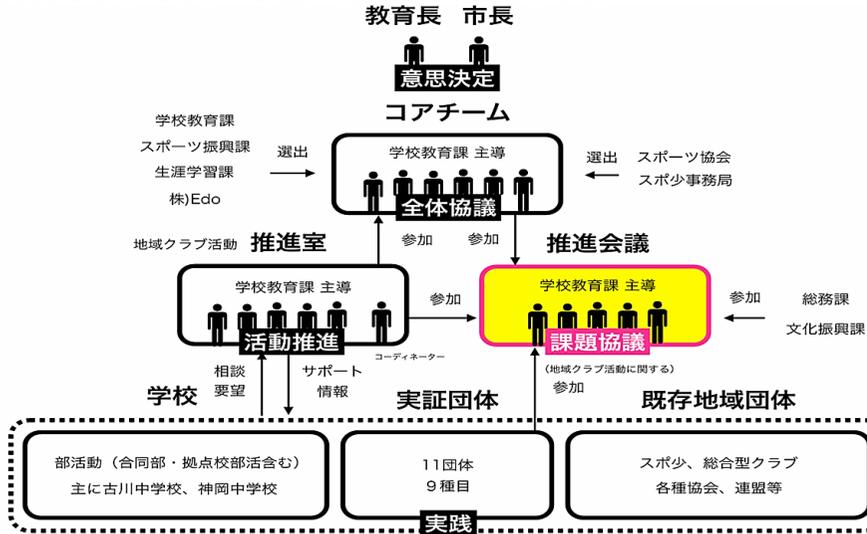
人口減少、少子化が進む中「人が足らずチームが組めないからやりたい活動ができない」「田舎は不利だ」「夢は叶わない」この地に暮らす子どもたちにはそんな風に思っていて欲しくない。そのためには取り組みを学校部活動をただただ地域に移行するものとしてせず、「子どもたちにとって」を議論の中心に据え、学校、地域それぞれの事情を鑑みて、子どもの成長が促進される持続可能な環境や仕組みを再構築する必要があります。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

飛騨市教育委員会は、学校と地域、関係団体、保護者等との協議の場をもちつつ、今ある部活動を新たな地域クラブ活動として行えるよう、推進と支援のために以下に取り組む。

- ・認定地域クラブの登録管理：生徒・指導者名簿等での個人・団体の登録管理等
- ・認定地域クラブの活動に関わる各種サポート：補助金関連の書類作成、相談窓口等
- ・各種会議、指導者研修の企画・運営：指導者研修会の実施、会議の連絡調整等
- ・児童生徒、保護者、住民に対する認定地域クラブの設置状況や活動内容の周知

◎首長部局

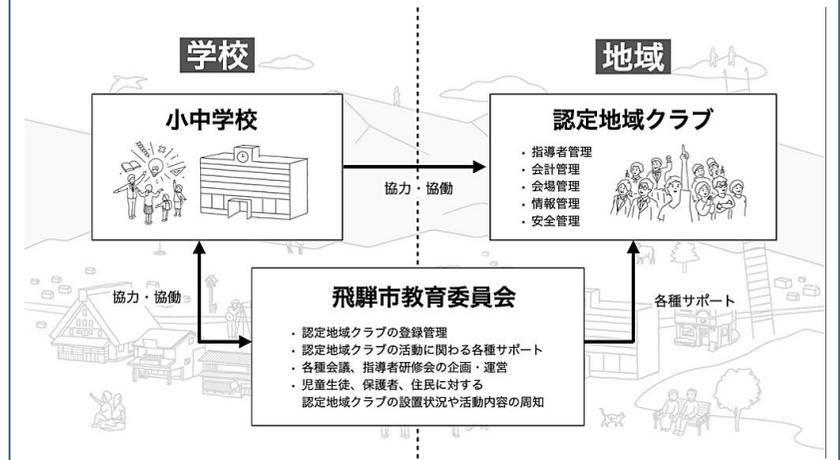
総合政策課 広報プロモーション係：広報活動を通じた地域クラブの移行状況の周知

総務課 行政係：活動場所への移動手段の確保に向けた公共交通の整備

財政課 財政係：地域クラブ活動の推進と支援に関わる予算管理

年間の事業スケジュール

- 令和6年4月 実証団体の発足
 - 令和6年5月 第1回推進会議の開催
 - 令和6年7月 部活動に関するアンケート実施（対象：児童生徒・保護者）
 - 令和6年8月 第2回推進会議の開催
 - 令和6年12月 指導者研修会の開催
 - 令和6年12月 中学校入学説明会への参加
 - 令和6年12月 教職員向け説明会の実施
 - 令和6年12月 第3回推進会議の開催
 - 令和7年2月 ガイドラインの策定
 - 令和7年2月 第4回推進会議の開催
- ※上記のほか、コア会議（年20回）を実施



2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

| | | | |
|----------|--|-------------|-----------|
| 中学校数 | 3校 | 実施した地域クラブ総数 | 10クラブ |
| ケース別クラブ数 | A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） | | 9クラブ（9部活） |
| | B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等） | | 1クラブ |
| 全体の指導者数 | 38人 | 全体の運営スタッフ数 | 31人 |

②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者 (学年別) | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数 (他クラブと兼務) | 会費 | 大会参加方法 |
|-------------------|---------|-------------------------|------|--------------|-------------------------------|------|------------|------|----------------------|---------------|----------------------|
| FGB | 保護者クラブ | 女子バスケットボール（新） | 週4回 | 17時～19時 | 1年生 5人 2年生 1人 3年生 6人 | 1年間 | 古川中学校体育館 | 2人 | 3人 | 月会費 3,000円 | 中体連：部活動 その他：地域クラブ |
| 古川男子バスケットボールクラブ | 保護者クラブ | 男子バスケットボール（新） | 週4回 | 17時～18時半 | 1年生 10人 2年生 7人 3年生 9人 | 1年間 | 古川中学校体育館 | 3人 | 3人 | 月会費 3,000円 | 中体連：部活動 その他：地域クラブ |
| 飛驒BBC | 保護者クラブ | 野球（新） | 週2回 | 8時半～11時半（土日） | 1年生 4人 2年生 3人 3年生 6人 | 1年間 | 古川中学校グラウンド | 6人 | 4人 | 月会費 3,000円 | 中体連：部活動 その他：地域クラブ |
| HIDA UNITED FC JY | 地域の競技団体 | サッカー | 週4回 | 16時～18時 | 1年生 10人 2年生 12人 3年生 12人 | 1年間 | 杉崎公園グラウンド | 4人 | 3人 | 月会費 3,000円 | 中体連：部活動 その他：地域クラブ |

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者 (学年別) | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数 (他クラブと兼務) | 会費 | 大会参加方法 |
|--------------|---------|-------------------------|------|-------------|------------------------------|------|--------------|------|----------------------|---------------|----------------------|
| 飛騨ソフトテニスクラブ | 保護者クラブ | 軟式テニス (新) | 週 4回 | 15 時半～17 時半 | 1年生 11人 2年生 3人 3年生 5人 | 1 年間 | 古川トレーニングセンター | 1 人 | 3 人 | 月会費 2,500円 | 部活動 |
| 飛騨合気道少年団 | スポーツ少年団 | 合気道 (新) | 週 2回 | 19 時～20 時 | 2年生 2人 3年生 2人 | 1 年間 | 古川トレーニングセンター | 2 人 | 3 人 | 月会費 2,000円 | 無し |
| 飛騨市柔道協会柔道クラブ | 地域の競技団体 | 柔道 (新) | 週 2回 | 19 時～21 時 | 1年生 3人 2年生 2人 | 1 年間 | 古川トレーニングセンター | 3 人 | 3 人 | 月会費 2,500円 | 中体連：部活動 その他：地域クラブ |
| 飛騨市剣道クラブ | 保護者クラブ | 剣道 (新) | 週 3回 | 20 時～21 時 | 1年生 2人 2年生 4人 | 1 年間 | 古川中学校格技場 | 4 人 | 3 人 | 月会費 3,000円 | 地域クラブ |
| 飛騨市卓球協会古川クラブ | 地域の競技団体 | 卓球 (新) | 週 3回 | 19 時～21 時 | 1年生 10人 2年生 17人 3年生 4人 | 1 年間 | 古川中学校格技場 | 6 人 | 3 人 | 月会費 2,000円 | 部活動 |
| 飛騨市卓球協会神岡クラブ | 地域の競技団体 | 卓球 (新) | 週 3回 | 19 時～20 時半 | 1年生 8人 2年生 12人 3年生 11人 | 1年間 | 桜ヶ丘体育館 | 7 人 | 3 人 | 月会費 2,000円 | 部活動 |

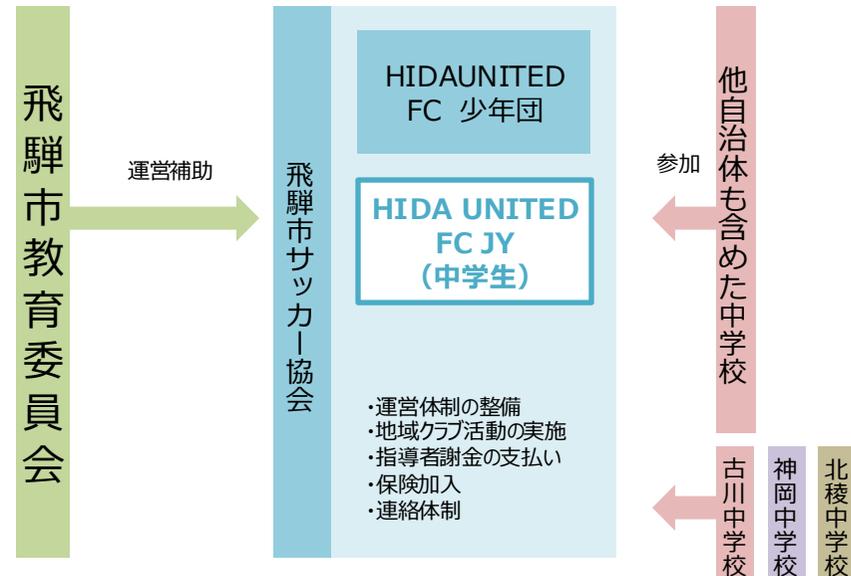
2.実証内容と成果

主な取組例

●HIDA UNITED FC JY 活動概要

| | |
|-----------------|---|
| 地域クラブ活動で実施した種目 | サッカー |
| 運営団体名 | 飛騨市サッカー協会 |
| 期間と日数 | サッカー：4月1日～3月31日 週4回程度 |
| 指導者の主な属性 | 小学校教員、協会役員 スポーツ少年団関係者 |
| 活動場所 | 古川中学校グラウンド 杉崎公園グラウンド |
| 主な移動手段 | 中学校間移送バス 保護者による送迎、自転車、徒歩 |
| 1人あたりの参加会費等(年額) | 3,000円/月 |
| 1人あたりの保険料 | スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年 |

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
役割：地域クラブ活動の円滑な実施に向けて運営管理等を行う
- 主任指導者 4名
役割：実技指導や大会・練習試合等の引率、緊急時の事故対応等を行う
- 運営補助者 9名
役割：普段の練習時における見守り活動や指導補助を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 教育委員会事務局内に地域クラブ活動推進室を設置し、専属職員を配置した。関係者との連絡調整や指導助言等を行う。
- 民間事業者と連携し、地域移行の現状と課題の取りまとめ、有効な取組の検討を行う。
- 運営団体・実施主体の整備として、地域での役割分担や市としての認定要件や基準等を示した「飛騨市認定地域クラブガイドライン」を策定する。

取組の成果

- 地域クラブ活動推進室を中心とした様々な部署を横断した取り組みにより、幅広い関係者との連絡調整や指導助言、各種会議の企画・運営等を円滑に行うことができた。
- 民間事業者やスポーツ・文化活動に関わる関係団体等を含めた定期的な会議や意見交換の場を設けること（推進会議/年4回、コア会議/年20回）で、多角的なアセスメントが得られ、地域移行に関する課題が明確になった。
- 児童生徒と保護者を対象とした部活動に関するアンケート結果を参考にしつつ、市が認定する地域クラブのガイドラインを策定した。ガイドラインの策定にあたっては、有識者や地域クラブ実証団体関係者、学校関係者等を構成員とした推進会議で検討を重ね、内容を決定した。

課題リスト

| | | |
|---|--|--|
| 1.スキマ時間 学校が終わってからクラブ活動が始まるまでの時間は、どんな方法で埋めるといいのかわかるか | 2.送迎 共働き世帯が多い中、保護者の送迎負担が多い。どのように軽減するといいいのかわかるか | 3.施設予約 クラブ活動が増えたり早まったりする場合は、活動場所は不足しないか |
| 4.指導者確保 育成 どのように指導者を確保していくか。また、育成研修受講のハードルをどう下げるといいのかわかるか | 5.クラブ運営 仕事をしながらのクラブ運営は大変。育成会の負担も気になるといえる。効率的にできないか | 6.活動場所 学校教室を利用する場合、どのように管理するといいいのかわかるか。今後活動場所は不足しないか |
| 7.補助金制度 地域クラブ活動を継続可能なものにするためどのような補助金制度があるといいいのかわかるか | 8.周知 クラブ活動の様子、推進プロジェクトの進捗や情報をどのように周知するといいいのかわかるか | 9.移行支援 部活動から地域クラブへ移行を促進するためどのような支援を行う必要があるか |



第1回推進会議

コーディネーターの具体的な動きの実績

【コーディネーター（地域クラブ活動推進室 担当者）】

- ・課題等のヒアリング・助言等を行うため、各クラブ年間4回程度訪問した。
- ・地域クラブ活動の運営に関する事務の一部の補助を行った。
- ・各種アンケートに関わる調査票やガイドラインの作成に取り組んだ。

今後の課題と対応方針

- 地域移行には教育委員会内だけで対処できない事案も多くあるため、庁内の関係各所と協力・連携体制を強化する必要がある。次年度は、関係課の会議参加等を通じて、より横断的な連携体制を築いていく。
- ガイドラインの周知と定期的なフォローアップを行っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

【令和6年度飛騨市認定地域クラブ指導者研修会】

趣旨：飛騨市で育つ子ども的人格形成や成長につながる地域クラブ活動を進めるにあたっては、学校部活動の意義を継承・発展させつつ、国や県、市のガイドラインに則り、地域全体で同じ方向を向いて、子どもたちが安心して参加できる新たな教育環境をつくり上げることが重要である。そのため、指導技術だけでなく、ガイドラインにも示すような心身の健康管理や事故の防止等も市内全域で共通理解をもち、子どもたちのサポート体制を充実させていくことを目的とした。

対象：飛騨市認定地域クラブで指導者として活動している方、今後活動を希望する方

開催形式：対面とオンラインを併用したハイブリッド形式

指導者研修の参加実績

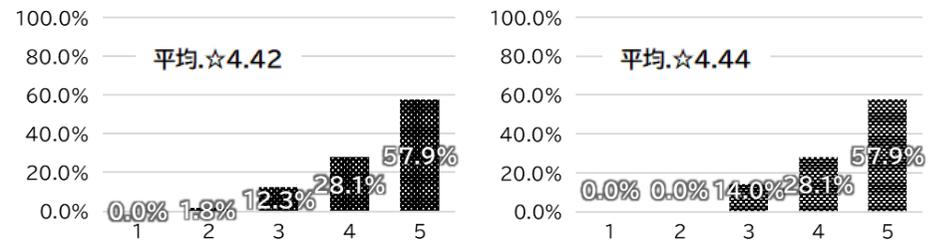
- ・開催日：令和 6年 12月 2日
- ・開催回数：1回
- ・参加人数：68人

幅広い関係者と連携・協働することで、学校教職員やスポーツ少年団関係者等にも参加募集の案内を行えたため、対象クラブの指導者のみでなく、関心のある保護者やスポーツ少年団役員からも参加申込があった。

受講者の声

アンケート結果：回答 57件、回答率 83.8%

研修内容の満足度（☆1 = 満足していない、☆5 = 満足している）



参加者からの感想（一部抜粋）

- ・文化芸術系のクラブへの学びの機会も欲しいです。
- ・部活動顧問としてこれまで指導してきましたが、自分の安全面への配慮のなさや知識のなさを痛感いたしました。

今後の課題と対応方針

- ◎単発研修として時間は適当だったものの、内容については参加者の多様なニーズに合わせる工夫が今後必要になってくる。
- ◎研修会が指導技術の向上のみでなく地域コミュニティの活性化に繋がるよう、幅広い関係者に周知を図っていく。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○部活動の地域移行を進めるにあたって、第一に当事者である子どもたちの意見や考えを丁寧に拾い上げ、地域クラブ活動移行の推進や支援の充実を図ることを目的に、部活動に関するアンケートを実施した（対象：小学5年生～中学3年生の児童生徒とその保護者）。

○実施主体や指導者、関係者のニーズや意見等を把握し、課題解決への取組に反映していくため、各クラブやスポーツ・文化活動に関わる関係団体に対し、定期的なヒアリングを実施した。

| 活動の詳細 | | | |
|---------------|---|--------------|---------------|
| 児童生徒 (回答率) | 703 人 (86.3%) | 保護者 (回答率) | 414 人 (53.0%) |
| 調査期間 | 令和6年7月中旬～令和6年10月中旬 | | |
| 調査内容 | 児童（小学校5・6年生） ◆プロフィールについて：性別、学校名、学年、習い事の有無と種類 ◆中学校の部活動について：部活動への入部意思、入部予定の部活動 など ◆地域クラブ活動について：地域移行に対する認知度、地域クラブへの参加意思 など 生徒（中学1年生～中学3年生） ◆プロフィールについて：性別、学校名、学年 ◆中学校の部活動について：部活動への所属の有無、部活動の種目、満足度 など ◆地域クラブ活動について：地域移行に対する認知度、地域クラブへの参加意思 など 保護者（小学5年生～中学3年生） ◆プロフィールについて：お子さんの学校名、学年、部活動・地域クラブ活動への所属状況 など ◆部活動の地域移行について：地域移行に対する認知度、月謝会費 など | | |
| 子供の声 | <ul style="list-style-type: none"> ● 部活動の地域移行で学校関係なく関わることがあれば良いと思う。 ● 活動を教える先生がちゃんとした人が確かめる。 ● 勝利を目指して練習するより、楽しめる方が良いです。 ● 時間が遅くなるのは嫌だけど、自分の好きなこととかを楽しく高められるなら楽しみです。 | | |
| 保護者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ● 指導者には、研修や安全面の知識などを徹底していただきたいです。 ● 地域で、どこでどのようなクラブ活動をしているのかが分からない。 ● 働いている親にとって、送迎はかなりの負担です。 ● 一番は子どもたちの気持ちを大事にしたい。 | | |

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

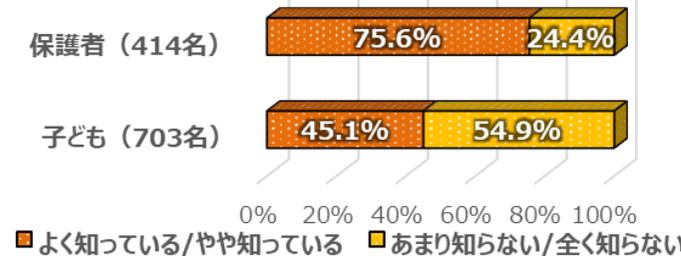
●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

アンケート結果から、次のようなことが明らかになった。

- ・地域クラブへの移行に対し、児童生徒ともに肯定的な意見が多かった一方で、指導者に対する不安感もみられた。
- ・全体の半数以上の保護者が「練習や試合への送迎」に負担感をもち、地域移行後の送迎への不安や心配の声が多かった。
- ・児童生徒54.9%、保護者24.4%が、地域移行に対してあまり知らない/全く知らないと回答した。
- ・許容できる月会費として、「1,000～3,000円程度」を選択した者が最も多かった（47.9%）。

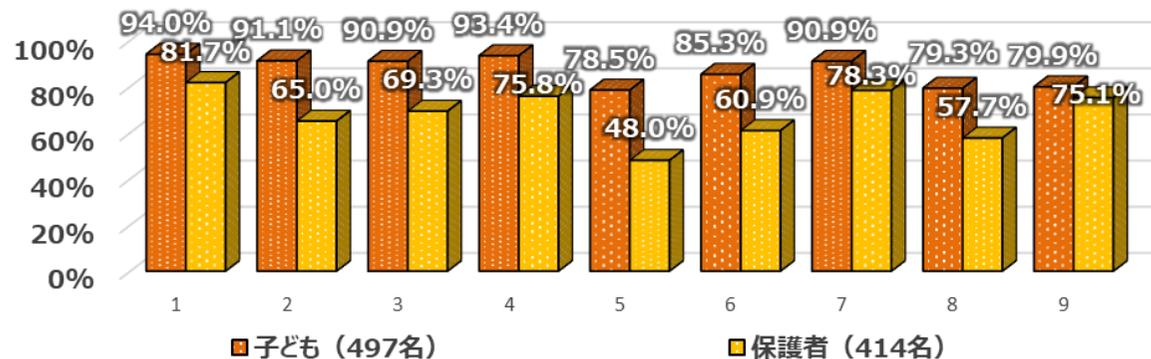
地域移行に対する認知度



《項目名》

1. 専門的で丁寧な指導を受けられる
2. より勝利を目指せる
3. 健康面に気をつけて取り組める
4. やりたい種目を選択できる
5. 一種目だけでなく複数の活動に参加できる
6. 勝敗や入賞などにこだわらず、気軽に楽しめる
7. 他校の友達ができる
8. 活動内容などを自分たちで決められる
9. いろいろな世代や年齢の人と一緒に活動ができる

地域クラブのニーズ



今後の課題と対応方針

- ◎本調査を通じて、子どもたちのニーズや保護者の困り感などについて、具体的な回答が得られた。次年度以降も定期的に調査を実施し、実態把握に努めるとともに、地域クラブ活動に対する課題や満足度についても調査し、地域移行の効果検証を行っていきたい。
- ◎今年度、本結果を指導者研修会やガイドラインの内容に反映することが

できた反面、「月会費（受益者負担と公的負担のバランス）」や「地域クラブでやってみたい活動種目（多種多様な体験機会の確保）」などについては検討が進まなかった。次年度は、これまでの部活動になかった活動種目にも取り組めるような地域移行の推進、クラブ運営を持続的に行うための費用負担の在り方について検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○部活動に関するアンケートの質問項目に、地域移行後に保護者が協力できる負担範囲に関わる質問を加え、費用負担の在り方を検討した。

○保護者の経済的な負担の解消を図るため、既存の部活動と同様に、地域クラブとして参加した大会等の交通費の補助や市内の公共体育施設の使用に対する減免等を行った。また、市が認定した地域クラブの指導者には、活動実績に応じて市から謝金補助を支払った。

○活動場所への移動手手段の確保と移動に係る負担の軽減を目的に、学校間移送バスの運行委託を行った（本資料p.9を参照）

取組の成果

○アンケート結果より、保護者が考える理想的な活動日数としては「平日3日（55.6%）」、「休日1日（72.0%）」が最も多く、既存の部活動と同程度の活動日数を望む一方で、月謝会費の許容範囲は「1,000～3,000円未満」を選択した保護者が最も多いことが明らかになった（47.1%）。

表. 理想と考えている平日および休日の活動日数について

| 平日 | 人数（名） | 割合 | 休日 | 人数（名） | 割合 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 0日 | 7 | 1.7% | 0日 | 60 | 14.5% |
| 1日 | 14 | 3.4% | 1日 | 298 | 72.0% |
| 2日 | 63 | 15.2% | 2日 | 56 | 13.5% |
| 3日 | 230 | 55.6% | n=414 | | |
| 4日 | 71 | 17.1% | | | |
| 5日 | 29 | 7.0% | | | |

表. 許容できる月謝会費について

| 選択肢 | 人数（名） | 割合 |
|-----------------|-------|-------|
| 1,000円未満 | 45 | 10.9% |
| 1,000～3,000円程度 | 195 | 47.1% |
| 3,000～5,000円程度 | 139 | 33.6% |
| 5,000～10,000円程度 | 31 | 7.5% |
| 10,000円以上 | 4 | 1.0% |
| n=414 | | |

○施設利用の減免を行ったことで、地域クラブの活動で生じる費用負担の軽減とともに、市内施設の積極的な活用が行えた。加えて、施設利用に関わる課との連携により、施設の予約状況をみて活動時間の適正化にも取り組むことができた。

今後の課題と対応方針

◎今年度実施したアンケートの結果から、保護者の受益者負担に対する考え（許容範囲）を把握できたものの、持続可能な地域クラブ運営を実現するには継続的な資金循環の確立が最も大きな課題である。次年度は引き続き、受益者負担への理解促進を行うとともに、公的負担とのバランスについて検討を進めていく。

◎地域クラブの活動が放課後以降の時間帯に移行したことで、その他の地域団体の活動時間帯と重なるケースがあった。今後は、そのことを踏まえた施設予約の調整、必要に応じたルール改正等が必要だと考える。

◎地域移行における役割分担、役割の明確化を図っていき、公的な支援の在り方についても検討していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

地域移行の取組が全国的に進められる中、本市においても「新たな社会教育環境をつくる」をコンセプトとし、地域移行に関わる課題解決の取組を進めてきた。今年度は、教育委員会事務局内に地域クラブ活動推進室を設置し、11の団体で地域クラブ活動を先行的に実施した。先行的に取り組む団体の支援や団体からのフィードバック等を得て、本市では地域移行に関わる課題を9つに分類し、解決策を検討した。

今年度からスタートした取組の中には、指導者研修会や運営事務の一部負担などが挙げられる。

子どもたちや地域住民にとって必要なスポーツ・文化環境を持続していくためにも、今後、地域で自走できる仕組みづくりが必要だと考える。



●成果の評価

今年度の成果としては、次のようなことが挙げられる。

- ・児童生徒・保護者の部活動に係る意識や実態の把握（Webアンケート実施）
 - ・市としての指針の明確化（飛騨市認定地域クラブガイドラインの策定）
 - ・生徒・保護者等の関係者への理解促進（説明機会の増進、広報資料の配布）
 - ・学校施設の利活用に向けた防犯機能強化（防犯シャッターの設置） など..
- 推進会議やコア会議、その他説明機会を通じて、数多くの関係者の理解と協力の下、平日・休日の地域移行に向けた取組を進めることができた。

一方で、「運営団体・実施主体の体制整備（支援体制の確立）」や「費用負担の在り方（公的負担と受益者負担の調整）」については非常に大きな課題であり、今後さらに取組を深化させていく必要がある。

●今後に向けて

今後、さらに、地域移行に向けた取組を円滑に進めるためには、幅広い関係者と横断的な連携体制を築き、地域移行の課題に対して総合的な解決を目指していく必要がある。引き続き、地域移行に関わる情報（市の取組や認定地域クラブの活動状況など）を関係者に伝えていき、課題解決に向けた取組のフォローを増やしていく。

また、持続可能な運営体制を実現していくためにも、財源の確保は必要不可欠となる。地域移行の推進で子どもの体験格差を広げないためにも、国や県との支え合いのもと、新たな財源確保の手法を検討し続けていく。

2.実証内容と成果②

広報資料

地域移行の取組を円滑に進めるにあたっては、幅広い関係者が連携・協働しながら適切な役割分担のもと一体になって進めていく必要がある。そのため、今年度、関係者に改革の進捗や今後の見通し等を広く伝えることを目的に広報資料の配布を行った（年3回：以下、掲載内容）。

第一版（7月配布）：部活動地域移行の背景や飛騒市としての基本

的な考え方、現在の進捗状況、移行までのロードマップなど

第二版（11月配布）：部活動に関するアンケート結果、地域クラブ実証団体の紹介

第三版（2月配布）：飛騒市認定地域クラブガイドラインの内容、次年度の方策

飛騒市では 中学校部活動の地域移行を進めています

地域移行とは？
生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保すること等を目的として、これまで学校が担っていた部活動を「地域クラブ」の活動に移行すること

2 どうして部活動を地域に移行するの？ → 少子化が深刻化
飛騒市の中学校でも R6年度：507名 → R17年度：316名 ↓200名程度

《少子化によって生じる部活動についての問題》
● 中学校における教員数の減少
● 中学校における部員数・部活動数の減少
他にも 多世代との活動機会の減少 多様な体験機会がなくなる など..

《地域移行で大切にしたいこと》
新たな社会環境をつくる
人口減少、少子化が進む「人」が足りないからやりたい活動ができない「田舎は不利だ」「事は許さない」この地に暮らす子どもたちにはそんな風にしてほしくない。そのためには学校部活動をただただ地域に移行する取り組みとせず、「子どもたちにとって」を議論の中心に据え、学校、地域の実情を鑑みて、子どもの成長が促進される持続可能な環境や仕組みを再構築する必要があります。

部活動を地域に移すため
新たな環境をつくるため

《地域移行に向けた取り組み》

学校、地域団体へのヒアリングや会議等を通じ、課題の整理や解決策の検討を行っています。

学校
部活動
古川中学校
神岡中学校
山之村中学校

地域クラブ実証団体
★FGB（女子バスケットボール）
★古川男子バスケットボールクラブ
★HIDA UNITED FC JY（サッカー）
★飛騒市柔道協会・柔道クラブ
★飛騒市剣道クラブ
★飛騒市高気少年団
★飛騒ソフトテニスクラブ
★飛騒BBC（軟式野球）
★飛騒ジュニアウィンドオーケストラ
★飛騒市卓球協会・古川クラブ
★飛騒市卓球協会・神岡クラブ

既存の地域団体
スポーツ少年団
総合型地域スポーツクラブ
各種協会
連盟 など

民間団体
民間クラブ [スポーツ・文化]

推進会議（写真左）
年4回・・・5月、8月、12月、2月に開催

コア会議（写真右）
年20回・・・隔週1回のペースで開催

《地域移行に関するロードマップ》

『地域クラブ活動』に関するQ&A

Q 現在、指導している学校の先生や部活動は今後どうなるのでしょうか？
A R8年度には現在の部活動はすべて廃止となる予定です。部活動の廃止に伴い、教員は指導しなくなります。指導を希望する教員は地域の指導者で登録し、指導可能です。

Q 今までの部活動の「部費」について、地域クラブ活動ではどうなるのでしょうか？
A 今までの「部費」が必要だったと同様に、用具の購入や指導者への謝金等、地域クラブ活動ごとで「活動費」を支払って活動することになります。

Q 複数の地域クラブへの所属、どこにも所属しないという事はできるのでしょうか？
A 子どもの興味・関心に応じ、複数の所属やどこにも所属しないという選択ができます。活動日や時間が異なることもあるので、子どもや関係者と相談して進めてください。

【飛騒市部活動の地域移行チラシ：第一版】

子ども・保護者に聞いた 部活動に関するアンケート

飛騒市は、子どもたちの新たな教育環境づくりとして平日・休日における部活動の地域移行を進めています。子どもたちにとって活動しやすい環境を整えるためにも、今回は当事者である子どもたちとその保護者を対象に、中学校の部活動に関するアンケートを行いました。

（アンケートの結果）
期間：2024年7月中旬～10月中旬
回答者：小学生・6年生 262名、中学生～3年生 443名
上記の学年のお子さんがいる保護者 414名
都市部・市外・中学校を別々に調査
方法：Googleフォームによるオンライン調査

結果と今後の方針
地域クラブに決められているものとして、
●安全で多様な活動（選択肢の広さ）
●地域移行が定着する地域クラブの紹介や新たな活動機会の立ち上げ支援を行っていく
●保護者の負担感への考慮
●子どもたちの意見の1つ「生徒の移動手段の確保」をクラブでの活動時間の調整とともに、公共交通機関の活用を含めた移動支援を進めていく
●地域移行に関わる情報の周知
入学説明会等を通じた周知活動と積極的に行う
●アンケート結果を参考にしつつ、進め方や活動費の決めを含めたガイドラインを調査

01 地域クラブへの参加意思
子どもたちの意見の中には、
「部活動の地域移行で学校設備なく聞かせるのが無理」と思う
「参加したいけどお金が払えない」と思う
「参加したいけどどこかへ移動したい」と思う
「参加したいけどどこかへ移動したい」と思う
（回答者数 487名）

02 地域クラブでやりたい種目（上位5つ）
109名、92名、89名、88名、87名
バレーボール、サッカー、ソフトテニス、卓球、野球

03 保護者の負担感
子どもが部活動/地域クラブに所属している保護者
No.1 生徒の送迎
活動費用
人間関係

04 地域移行に対する認知度
保護者（448名）
子ども（703名）
75.6%、70.4%
45.1%、56.9%

05 地域クラブへのニーズ
指導者には研修や学習面での知識などを提供してほしい
地域でどのようなクラブが活動しているのかわからない
1. 専門的でない指導を受けられる
2. より練習を指導できる
3. 練習に役立つ指導を受けられる
4. やりたかった種目を指導できる
5. 一歩引けるような練習の環境に活動できる
6. 練習や入会などにこだわらず、気軽に楽しめる
7. 練習の場が確保される
8. 練習内容や子どもたちで決められる
9. いろいろな世代や年齢の人と一緒に活動できる

飛騒市地域クラブ実証団体

2024年11月時点
※年間活動上限あり（396時間）

記載例
HIDA ATHLETIC CLUB
飛騒BBC
飛騒市卓球協会
飛騒市卓球協会・古川クラブ
飛騒市卓球協会・神岡クラブ
飛騒ソフトテニスクラブ
飛騒ジュニアウィンドオーケストラ
飛騒市柔道協会・飛騒柔道クラブ
飛騒市剣道クラブ

各団体の詳細情報（活動時間、連絡先、代表者等）が記載されています。

【飛騒市部活動の地域移行チラシ：第二版】

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【コア会議での分科会】



【大会への参加：飛騨BBC（軟式野球）】



【推進会議でのグループディスカッション】



【飛騨市認定地域クラブ指導者研修会】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

協議会設置・検討
民間事業者と協働

令和5年

多様で持続可能な
地域クラブ活動
推進体制の検討

生徒・保護者
関係団体へ説明

令和6年

地域クラブ活動
実証事業実施

令和7年

地域クラブ活動
支援センター
(仮称)
設置に向けた準備

令和8年

地域クラブ活動
完全移行

◎地域部活動推進協議会
(令和4年 4回、令和5年 3回)

【実施内容】

新たな社会教育環境の構築
令和8年度までの目標・ロードマップ

《課題》

- ・関係者への理解促進（説明）
- ・地域クラブ活動に参加する上での保護者の負担軽減
- ・活動場所への移動手段の確保
- ・運営団体の支援体制整備
- ・実施主体の事務代行などをサポートする団体の体制づくり

※今後、地域クラブ活動の実証により、課題を明確化し、解決策を探していく

◎地域移行に関する説明会
令和5年度の開催日 開催地
9～10月（各学校）

10月31日 河合町
11月 1日 古川町
11月 7日 宮川町
11月 8日 神岡町

【実施内容】

地域移行の背景
(部活度を取り巻く課題)
新たな社会教育環境づくり
⇒多様で持続可能な仕組み
今後の見通し

◎地域クラブ実証団体の募集
令和5年11月27日 説明会実施
⇒14団体80名程度 参加

11団体を実証団体として認定
主な種目（バスケットボール、軟式野球、剣道、柔道など）

◎地域クラブ活動推進室の設置
教育委員会学校教育課内に設置し、
専属職員（任期付）を1名配置

◎地域クラブ活動実証団体の発足
11団体9種目が実証団体として活動開始

◎地域クラブ活動推進会議
(令和6年度 4回)
地域のスポーツ・文化活動の関係団体
学校関係者、実証団体関係者等が参加
・地域移行の課題解決に向けた取組
・意見交流（課題と成果について）など

◎部活動に関するアンケートの実施
児童生徒・保護者のニーズ調査・分析

◎認定地域クラブガイドライン策定
認定要件等を定めたガイドラインを策定

◎地域移行に関わる広報資料の配布

◎支援センター設置準備
支援センターの在り方の検討

◎認定地域クラブの発足
ガイドラインに基づき、
随時、認定を行っていく

◎関係者への理解促進
進捗状況等、定期配信
⇒チラシ+ホームページ等

◎地域移行の推進
地域移行に困難さがある種目の移行支援（助言等）
⇒現存の部活動から移行

◎指導者研修会の開催
令和6年度 初開催
令和7年度 2回開催予定

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

| | 令和5年度 | | 令和6～7年度 | | 令和8年度 |
|------|---|------------|---|------------|--|
| 活動主体 | 学校 (8割) | 地域 (2割) | 学校 (5割) | 地域 (5割) | 地域 (10割) |
| 主な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会の実施 ・各種団体へのヒアリング ・課題の整理 ・学校、地域への説明 ・地域クラブ実証団体の募集と認定 | | <ul style="list-style-type: none"> ・各種実態の把握と解決策の検討 ・PTA 総会や育成会総会での説明 ・認定地域クラブガイドラインの策定 ・地域移行の準備 <p>(R7 年度夏までの準備完了が目標)</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・支援センター(仮称)の設置 ・推進室での各種説明会、体験会の開催 ・休日は完全移行 |